

母子大池

(もうしおおいけ)



全景



都会より訪れる人が多い

ため池の概要

□ため池の所在地

兵庫県三田市

□ため池の特徴

母子大池は、汚染源の全くない標高400mにあるため池で、抜群の透明度で訪れる人が持ち帰るほどきれいな水を湛えています。

周辺は全く開発されておらず、カワセミが見られ、自然環境が保たれた秘境となっています。また、池の進入路3.3kmも散策路と位置づけ、荒れやすい箇所は簡易舗装だけに留めています。

大池は、大正末期から昭和初期の大不況時、公共事業として築造され(昭和8年完成)、下流の末野地区等の開田に貢献してきました。現在も水田70haを潤しています。

築造に当たっては、明治4年に三田藩九鬼隆輝が管領地の山野を開発するために造った母子カチャダニ池や水路が活用されています。

毎年4月には、大池堤に安置する水神社で厳粛に祭礼が行われています。また、三年毎の池の水抜き時には、子供たちを招待して魚の掴み獲りが行われます。

関連情報

いなみ野ため池ミュージアム

(明石、加古川、高砂、稲美、播磨ため池群)



「近代化産業遺産」に登録された
いなみ野ため池ミュージアム



左上: 洗い場の残るため池
左下: オニバス
右上: ながむろジュンサイ祭り
右下: 樋抜きの儀

ため池の概要

□ため池の所在地

兵庫県(明石市、加古川市、高砂市、加古郡稲美町、播磨町)

□ため池の特徴

いなみ野ため池ミュージアムは、東播磨地域のため池群の池1つ1つを展示物、全体を博物館と見立てたもので、地域住民、自然保護団体、学識者等からなる「ため池協議会」によって、保全活動やため池を中心とした地域づくりが非常に活発に行われています。

東播磨は小雨で地形的に河川取水が困難なため、非かんがい期に上流で取水した水を、数多くのため池を造って貯水し、池を相互に水路で結んで反復利用する効率的な水利システムが構築されました。

ため池群には兵庫県下最古(675年)の池や最大の池などが含まれており、その総数は600に及び日本有数のため池密度を誇ります。

堤防や池をつなぐ水路網、分水施設には水を無駄にしない工夫の跡が残され、文化財として評価も高く、経済産業省「近代化産業遺産」、文化庁「文化的景観180ヶ所」になっています。

また、ため池群は内陸部の貴重な水辺環境を形成しており、カモやコハクチョウが飛来し、ダルマガエル、ガガブタ、車軸藻、オニバスなどのレッドデータブック希少種も見られます。

関連情報

インターネット検索エンジンにて「いなみ野ため池ミュージアム」と検索

北池（浄谷北池）

（きたいけ(きよたにきたいけ)）



全景



夕日に染まる北池

ため池の概要

□ため池の所在地

兵庫県小野市

□ため池の特徴

浄谷北池は800年以上前の鎌倉時代に造られたため池です。国宝浄土寺に隣接し、夕日に輝く美しい西空と宙を舞っているかのような阿弥陀如来及び両脇自立像を見ることができます。

三尊像が赤々と輝く光の現象は、夕日だけでなく北池に反射した光も取り込んでいるためであると言われており、ため池の自然と歴史遺産がマッチした景観を演出し、多くの観光客が訪れています。

また、ウキシバ(イネ科)やヒシ(ヒシ科)等の植物、ヘラブナなどの魚も見られ、カモなどの鳥類も飛来する自然豊かなため池です。

ため池を中心としたイベントや堤体を利用したイルミネーションが設置され、地域づくりの中心的存在となっています。

毎年11月には地域ぐるみで「ため池クリーンキャンペーン」が行われています。

関連情報

男池（鴨池）・女池

（おいけ（かもいけ）・めいけ）



中央、男池 左、女池



男池に飛来している鴨

ため池の概要

□ため池の所在地

兵庫県小野市

□ため池の特徴

男池（鴨池）は貯水量が788.5千m³、女池は貯水量は95千m³であり、両池あわせて100haを超える水田を潤しています。

両池は播磨中部丘陵県立自然公園の中心に位置し、冬季になると、男池はシベリア方面からの鴨の飛来地、女池はコハクチョウの飛来地として知られており、多くのカメラマンが撮影に訪れます。

男池を中心に野鳥観察小屋、グラウンドなどが整備され、また、小野アルプスのハイキングコースにもなっており、多くの方が自然を感じて散策しています。

関連情報

牧野大池

(まきのおおいけ)



全景



水辺の様子

ため池の概要

□ため池の所在地
兵庫県多可郡多可町

□ため池の特徴

牧野大池の堤体は、堤長200m、堤高16.5mの中心コア型アースダムで、背景のトンガリ山がエメラルド色の水面に浮かび上がる様子は絶景です。

大正2年、痩せ地で水不足に悩む農家のために計画がたてられ、昭和8年に完成しました。完成に至るまで幾度か財政危機に直面しましたが、延べ5万4千人余りがつるはし、すどり、もっこ、トロッコなどの道具を使い、殆ど手作業で造りあげました。

先人の苦労を思い偲び、またかつて鉱山がさかえた地域の歴史に思いを馳せようと、雨乞いの龍神伝説をもとに『竜神太鼓』が誕生しました。

昭和57年7月、同池キャンプ場開きで初めて披露され、以降、地元有志「ふるさと研究会」や地元中学校では、昭和63年からクラブ活動に取り入れ、今では学校の選択教科(伝統芸能)として受け継がれています。

また、毎年4月の第2日曜日は、村役人・宮当番等約40人が集まり、用水確保に取り組んできた先人達の功績や水の恵みに感謝する大池まつり(祈願祭)を開催しています。

関連情報

新宮池

(しんぐういけ)



全景



池のジャコ(雑魚)捕り(かいぼり)

ため池の概要

□ため池の所在地
兵庫県多可郡多可町

□ため池の特徴

新宮池は12haの田畑を潤すため池で、エビ、コイ、アマゴなど多数の生き物が生息していることから、昔から地域の人はこちらの生き物を恵みとして生活していました。

10年程前、ため池を地域の資源として活用し、併せて池の維持管理を行うため、地元奥中集落(むらづくり協議会)が『池のジャコ捕り』(かいぼり)を始めました。

以後毎年、稲刈りが終わる10月中旬に開催され、1ヵ月ほど前から水抜きを行い底さらえをすることで、池底の泥を天日干しし、腐敗を防いでいます。

イベント当日は、子供のくるぶし程度の高さまで水が抜かれ、地域の子供達が泥まみれになりながら網を手に雑魚やエビをすくい上げます。そして、その場で炭火焼きやかき揚げが振る舞われ、集落内外の人々が交流を深めています。

関連情報

平池

(ひらいけ)



地域住民の憩いの場になっている。



多くの種類のハスが栽培されている。



大賀ハス

ため池の概要

□ため池の所在地

兵庫県加東市

□ため池の特徴

平池は、「古代ハス」とも「2000年ハス」とも呼ばれる大賀ハスが栽培されている貯水量7.6万 m^3 のため池で、加東市の約13haの水田を潤しています。

大賀ハスは、平池周辺が公園として昭和50年代後半に整備された際、新しい観光スポットとするため、15粒のタネを譲り受けて発芽させ、今では大輪の花を数多く咲かせるまでになっています。

また、大賀ハス以外にも120種類以上の様々なハスが栽培され6月下旬から7月上旬にかけて、多くの方が見学に訪れます。

関連情報

瀬戸池

(せといけ)



全景



自生のオニバス

ため池の概要

□ため池の所在地

兵庫県姫路市

□ため池の特徴

瀬戸池は、絶滅危惧種である「オニバス」が自生している姫路市では数少ないため池で、貯水量1万2千 m^3 をもち姫路市の水田約8haを潤しています。

平成12年度に完了した改修工事の際には、地域住民が自主的に参加して水生植物の種子を移植し保存するなど、地域全体で池の自然環境の維持に努めています。

改修に併せて散策路や休憩施設が整備され、付近住民や近くにある学校の生徒児童の憩いの場所となっています。

関連情報

西光寺野台地のため池群

(さいこうじのだいちのためいけぐん)



長池の全景

ため池の概要

□ため池の所在地

兵庫県姫路市、神崎郡福崎町

□ため池の特徴

西光寺野台地のため池群は、主な4池(桜上池、桜下池、長池、奥池)で200万m³を超える貯水量を持ち、300ha以上の耕地を潤しています。

西光寺野の農村風景に溶け込んでいるこれらのため池は地域に潤いを与え、散策路やジョギングコースにもなっています。

西光寺野は、姫路市から福崎町に跨る400haの馬の背状の台地で、用水が不足し、江戸期より何度もため池が造られてきましたが、決壊により新田が土砂に埋まるなどの被害が繰り返し発生してきました。

このため、上流の岡部川から非かんがい期に取水し、主なため池6ヶ所を整備してかんがいを行う大事業が計画され、苦労の末大正4年に完成しました。特に最大の長池の築造は、旧長池と旧左衛門池を一つにするもので、困難を極めた一大事業でした。

また、この地には明治期に生野銀山と港を結ぶ「銀の馬車道」が開通し、台地開拓の気運を一気に高めたといわれています。

20年度には、ため池群や疎水路が近代化産業遺産群の認定を受け、ため池や「いぶし瓦」工場など地区内の史跡を巡る「銀の馬車道ため池ウォーキング」が開催されて好評を博しています。

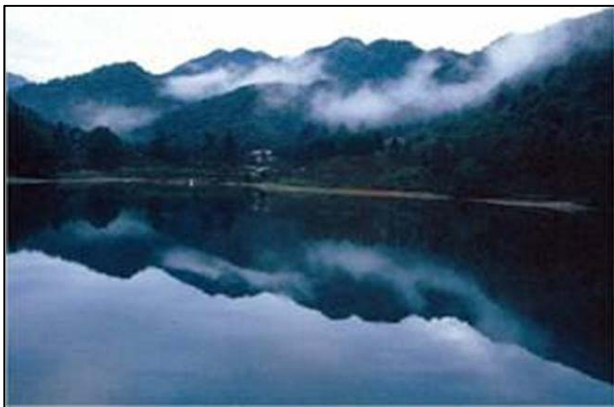
関連情報

田口奥池

(たぐちおくいけ)



三つ葉ツツジと田口奥池



湛える水が清らかで、水面が静かなときは鏡のように景色が映る

ため池の概要

□ため池の所在地
兵庫県神崎郡福崎町

□ため池の特徴
田口奥池は、貯水量約10万 m^3 を有し今も約10haの水田を潤すため池で、豊かな深い緑に囲まれており、近畿観光百景、県下八景、ひょうご森林浴場五十選に選定され、清らかな水を湛え6月には蛍が乱舞します。

周辺の森は近年整備され、「なぐさの森」森林公園となっています。すばらしい自然と人間の営みが共存し、他に類を見ない四季折々の風景を生み出しています。

池の建立碑には「度々干上がる七種川に不安を覚えた地主たちが相談し、新たにため池を築造することになった」とあり、渇水期には、池内から当時の道路やお地蔵様の跡が表れ、ため池造成にかかる先人の切実な思いと営みを感じ取ることができます。

関連情報